

# 素敵な駅をつくる産学協同 『八幡前駅プロジェクト』の様子が新聞で紹介されました！

京都新聞 2016年6月24日付 朝刊に掲載



叡山電鉄八幡前駅に設置された、同志社高の旧礼拝堂で使用されていた長椅子(京都市左京区)

京都市左京区の叡山電鉄八幡前駅に23日、

## 同志社中・高から叡電八幡前へ 駅に旧礼拝堂長椅子

55年使われた木製「シンボルに」

同志社高の旧礼拝堂で55年間使われていた長椅子1脚が設置された。同駅に近い同志社中と叡電が共同で企画し、関係者が「駅のシンボルになってほしい」と除幕式を行った。

八幡前駅は同志社中・高の生徒たちが通学に利用しているが、地下鉄国際会館駅の開業後は利用が減っている。2013年から同志社中と叡電が「八幡前駅をすてきな駅にしよう」と、ホームの手すりの塗装やクリスマス飾り付けなど、活性化に取り組んでいる。

設置された長椅子は木製の4人掛けで、1955(昭和30)年から2010年まで同志社高の旧礼拝堂で使用されていた。この日は同駅で除幕式が行われ、同志社中・高の木村良己校長や叡電の松下靖社長らが出席。木村校長は「子どもたちの成長の息吹を見守ってきた椅子

が、地域の発展につながることを望みたい」とあいさつした。

(後藤創平)

「八幡前駅プロジェクト」は、2013年に始まった同志社中学校の有志生徒と叡山電車による産学協同の「素敵な駅」をつくる取り組みです。地下鉄開通後、八幡前駅の通学利用者は中・高全体の約1割ほどまでに激減し、また周辺地域の住民も少子高齢化が進み、過去の活気を失っている八幡前駅。「町の人にとっても、同志社にとっても大切な八幡前駅を、もう一度素敵な駅にしたい。」その思いで、これまでに「手すりの塗装」「壁新聞の季刊発行」などの提案・取り組みを行ってきました。

“寂しい”“暗い”といった駅が抱える課題を、中学生が演出した企画で“賑わい”や“明るさ”に変えたいと願っています。本校生徒のみならず、周辺地域住民の方々や観光客にとっても駅への愛着を持っていただけると期待しています。

PBL(Problem Based Learning)やアントレプレナーシップ教育も注目される今、京都の街に根差した本プロジェクトは、中学生に課題解決能力や企画提案力、チームワークやリーダーシップを身につける学びの場となっています。